

こんなことがありました/

まちの話題



目標は全国優勝

高山さん・清水さんが

空手の大会で入賞

5月23日、進義館所属の高山悠斗さん（新入小3年）と清水花桜さん（直方二中1年）が、7月30・31日に開催される、第64回小学生・中学生全国空手道選手権大会に出場することを報告に、市庁舎を表敬訪問しました。

二人は4月24日に行われた第41回福岡県空手道選手権大会に出場し、高山さんは小学3年生男子形の部で3位、清水さんは中学1年女子組手の部で準優勝。みごと全国大会への切符を手に入れました。

日々の練習も

楽しいと笑顔で話すふたり。県大会での結果は悔しいものですが、全国大会での目標を「優勝」と力強く語ってくれました。



ゴミゼロで笑顔満点

春の遠賀川一斉清掃

5月28日、遠賀川河川敷で3年ぶりの「春の遠賀川一斉清掃」ボランティア清掃が行われました。

快晴で暖かな気温の中、地元企業やボランティア団体、一般市民ら306人が参加し、1時間ほど清掃活動を実施しました。参加者はゴミ袋や火バサミを手に、たばこの吸殻やプラスチックごみ、空き缶など大量のゴミを拾い上げ、きれいな河川敷となりました。



芙美子像の原型を寄贈

6月2日、須崎町公園に建立されている「夢馳せる芙美子」像の原型像が、作者の片山博詞さんより市に寄贈されました。

像は作家林芙美子が「放浪記」の冒頭に描いた直方時代の姿を表現したもので、直方文化連盟が創立65周年記念事業として、昨年6月に建立したものです。

「原型像も活用してもらえたら」という片山さんの思いから市庁舎3階の廊下に設置され、自由に鑑賞することができます。片山さんは「直方で過ごした多様な人々との出会いが芙美子の作家人生を位置付けた。ふさわしい場に収まってくれて嬉しい」と語りました。

寄贈に対して市長は「大切に、市民の皆さんに親しんでもらいたい」と感謝の言葉を述べました。





思い出の土地を巡る

喜寿同窓会

5月19日、感田小学校を1957年に卒業した同窓生らが「ふるさと感田喜寿同窓会」を行い、同校を訪問しました。

還暦の同窓会を機に、それ以降2年ごとに6年間同じクラスで時を過ごしてきた仲間との同窓会を開催。地元での同窓会だけでなく、遠方に住む同窓生の元へ訪問し絆を深めてきました。77歳の喜寿を迎えた昨年の会はコロナ禍のため自粛。1年遅れの喜寿同窓会は42人のクラス写真とともに感田地区をマイクロバスで見学し、幼いころの思い出の風景を懐かしみながらタイムスリップ気分を味わい、感田小学校を訪れました。

代表の上川百合子さんは「今回初めて参加する人、20年ぶりに会う人もいて、元気に集まってくれて嬉しい」と笑顔で話しました。同校の下元校長は「皆さん元気で母校への愛情があり素晴らしい。自分のふるさとを見直すきっかけとして、集会などで子どもたちにも知らせたい」と語りました。



親子の愛情を描いた大作

市庁舎に展示

6月8日、新美術協会第46回展で内閣総理大臣賞を受賞した日本画「待餌」が市庁舎へ飾られました。日本画家谷口露明さんの作品で、作品を管理する息子の谷口正晴さんからの市庁舎へ飾って欲しいとの申し出により1年間、秘書広報課（市庁舎3階）の壁面に展示しています。



谷口露明さんは建設会社の社長を務めながら65歳から独学で日本画を始めました。67歳での筑豊美術展入選をはじめ、県展、新美術協会展での入賞実績を重ね審査員も務めるなど、精力的に活動をされてきました。

今回展示された「待餌」はサギの親子が描かれた100号サイズの作品です。親鳥が孵化した雛にえさを与え一生懸命育てている姿が描かれ、木の上の巣はハート形で愛情に満ちています。作品を残して欲しいという露明さんの想いから、今後10点程寄贈を予定しているといい、市長は「郷土を誇る作家の作品。多くの人に観てもらいたい」と話しました。この

「待餌」は庁舎開庁時に鑑賞できます。作品が展示されている上頓野の露明アートギャラリー（協和建設内）では、これまでに描かれた作品が鑑賞できます。来館の際は電話にてご連絡ください。

《露明アートギャラリー》

ところ：直方市上頓野2458・5

電話：0949・26・1363（協和建設内）

市庁舎で絵画鑑賞は

いかがですか

3階から6階のエレベーター前に、直方谷尾美術館収蔵の絵画を展示しています。ぜひご覧ください。



市のホームページでは、この他の話題も公開しています。